

# 第26回 関西詩人協会総会プログラム

日時 2019年11月17日(日) 13時開場 13時30分開会  
 会場 大阪キャッスルホテル  
 地下鉄谷町線・京阪電車「天満橋駅」の上2又は12番出口  
 〒540-0032大阪府中央区天満橋京町1-1 ☎06-6942-2401  
 参加費 会員 無料 一般 500円 懇親会費 6000円

## 開会挨拶

物故者への黙祷 (逝去：佐藤勝太・釣部与志氏・宇田良子・水谷なりこ)

代表挨拶 左子真由美代表

来賓挨拶 日本詩人クラブ理事長 佐相憲一氏

議長選出

## 1. 議事

- ① 運営事業報告
  - ② 会報発行報告
  - ③ インターネット・ホームページ報告
  - ④ 会計決算報告
  - ⑤ 会計監査報告
  - ⑥ 議案採決
  - ⑦ 次年度事業計画案
  - ⑧ 次年度予算案
  - ⑨ 議案採決
- 議長退任

—————休憩—————

## 2. 講演 以倉紘平氏「現代詩と私一詩の原点について」

後援 日本現代詩人会

## 3. 自選詩集第9集・創立25年記念誌 出版記念会

出版委員会から挨拶

参加作品朗読

## 4. 新入会員の紹介

(お願い 新入会の方は極力ご出席下さい)

## 5. 本年度会員が出版した詩書紹介

(お願い 本年度詩書を出版された方は、その詩書をご持参下さい)

## 6. 閉会挨拶

—————休憩・会場が変わります—————

## 第2部 懇親会 17:00～19:00

年初から総務の釣部与志さんを失うという波乱がありましたが、あっという間に一年が過ぎようとしています。ここに一年を締めくくって新しい一年を迎えるための総会です。どうぞお出かけ下さい。

講演はたくさんの素晴らしい詩集を持たれて、現代詩人会の理事長もされたことのある以倉紘平さんです。彼は早い頃からの関西詩人協会のメンバーです。改めてお話を伺うチャンスもありませんでしたので、この度は前掲の「詩の原点について」についてお話いただくことになりました。ぜひ一緒に、我々の原点に立ち返るべくお話をお聞きしたいと思っています。

# 関西詩人協会会報

第95号

2019.10.1

発行者 左子真由美

- ① 第26回 関西詩人協会総会プログラム
- ② 関西詩人協会と県現代詩協会の交流会
- ③ 報告【会員が作る詩話会2019】
- ④ 詩画展報告
- ⑤ 新入会員／新入会員の作品
- ⑥ 運営委員会議事録／ホームページ報告／入退会／会員の活動
- ⑦ 今後の予定
- ⑧ 会員の最新詩書／会員発行の詩誌／団体の会報・図書

## 関西詩人協会と県現代詩協会の交流会

「詩で開こう こころと未来を」報告

永井ますみ

先代事務局長・大倉さんの頃から兵庫県現代詩協会と何か共同で事業ができないだろうかという提案があり、この度ようやくそれが実現した。表題の通りの朗読とフリーマーケットのイベントが8月17日、台風十号が通り過ぎた翌日に西宮市民会館の二二六名も収容できる大会議室を借りて行われた。

準備会は三回行った。企画の確認と具体的な企画と更に当日のプログラムについてなどだった。兵庫県の方は役員改選を挟んでだったが意志の統一があつて、齟齬することはなかった。当会の担当は榊次郎、左子真由美、と私。また仲立ちに和比古さんが動いてくれた。

私は寺西幹仁さん主宰の「詩のフリーマーケット」を二〇〇〇年五月に千里公園で経験している。そこで

詩で開こう こころと未来を！

時を刻む音はいまだ聞こえないから (原圭治)

詩はテラ (地球) だにや おどろしや (中)

詩は時空を飛んで小さな泉の淵に着地する種子の

ようだ (真弓)

泉のほとりでお会いしましょう 月の雫のこぼれ

るとき (千代)

音がするのだった 記憶の中で崩れていくもの

積み上げる日のあることを。(侘昏)

積んでいるよねってわかって欲しい (ま)

思いやり非平和 (大倉)

風に誘われて詩の散歩 (和比古)

月の下抱いたり離れたたり (にしのみや)

洪水の言葉泳ぐ (詠み人知らず)

押し寄せる流れに逆らってどこへ行く (れい子)

やさしい言葉で人間を書く (小田涼子)

故佐藤勝太さんや故飛鳥浪漫さん、下前幸一さんに会った。同郷の詩人にも会って、その後のおつき合いも続いている。

さて、当日のことだが、参加者は一般を含めて総数69名だった。前半は永井が司会を務めた。両会長の挨拶の後、朗読を各会二人ずつ。その名前とタイトルを記すと、

兵・江口節「木が立っている」

関・村上さき「愛のアクション」他

兵・北岡武司「強烈な色」他

関・山川茂「怨嗟の食卓」他

兵・黒田ナオ「夜へ行くバス」

関・名古きよえ「一筋の涙」

兵・時里二郎「つきのしま」

関・熊井三郎「野ん乃さんのこと」

マイクが時々声を掴むのを外すことがあったようだが、朗読は概ね後方まで聴衆を引き込んでいた。

司会を兵庫県現代詩協会副会長の神田さよさんにバトンタッチ。参集下さった個人の紹介を手早くすませて、フリーマーケットの開催となった。当初、用意していた同人誌の看板は30枚ばかりだったが、当日自分の本や同人誌を持ち込まれた方もあり、机から溢れ、こぼれる位だった。(もつとフリーマーケットの面積を増やすべきだったか?)

上はフリーの時間に書いていただいた一行詩である。一時間余りのフリーマーケットの時間の後、関西詩人協会の松原さおりさんのピアノ演奏と兵庫県現代詩協会の福永祥子さんとその仲間たちによる指人形を楽しんだ。

午後5時からは席を「くすのき」に移して交流を更に密にした。こちらの参加者は全部で32名だった。

次は頂いた感想のごく一部です

○同人誌同士の話す機会ってないことなので、なかなかおもしろかったです。

○お名前だけしか知らなかった人に初めてお会いできたり、また3年位もお会いしていなかった人にお会いできたり、とても有意義でした。

○皆さん高齢化で・・・と仰いますが、なんのなんのそんなことは無縁の様にどなたも元気で活躍されており、元気をいただいで帰るばかりです。繋がるって大事ですね。

○フリーマーケットを中心にしたこの度ののような企画が今後また時を置いていつかあればいいなと思いましたが。会費の負担にもならないように本当にお心尽くしで感謝しています。とくに、詩の朗読では刺激をいただきました。

○「会員向けの時間」、「一般の人も入って下さいの時間」、その両方を構成することを、ちよつと意識した方がいんじゃないかと思いましたが。フリマを最初から14時半からと決めておいて、時間区分で宣伝しておけば良かったんじゃないかな。

ご参加下さった関西詩人協会会員 (38名)

以倉紘平、市原礼子、猪谷美知子、岩井洋、和比古、加納由将、亀井真知子、香山雅代、神田さよ、大倉元、尾崎まこと、北原千代、熊井三郎、近藤摩耶、斎藤明典、嵯峨京子、左子真由美、島秀生、田島廣子、司由衣、永井ますみ、中尾彰秀、中西衛、名古きよえ、野口幸雄、原圭治、福田ケイ、松原さおり、松村信人、美濃吉昭、村上さき、村野由樹、山川茂、山本由美子、吉田定一、奈木丈、吉中桃子、吉田光夫 (うち、両会会員9名)

以倉紘平、猪谷美知子、和比古、亀井真知子、香山雅代、神田さよ、野口幸雄、奈木丈、吉田定一、外部から5名参加



兵庫県現代詩協会の会長・時里二郎氏挨拶

報告【会員が作る詩話会2019】

担当 事務局

日時 2019年6月2日

午後2時～4時30分

場所 大阪府立中央図書館大会議場

出席者 33名

第28回の詩画展(5月21日～6月22日)が行われた最終日に、この詩話会が催された。

司会は名古きよえさん、ビデオ映写担当は紀ノ国屋千さん。最初に事務局長の永井ますみさんの挨拶があり、つづいて1部から3部にわたり進められた。

1部

折口信夫「死者の書 朗読」

5月11日の文学散歩で当麻寺を訪ねた折に、行われた朗読『死者の書』を以下の会員有志により再演された。市原礼子、高丸もと子、田島廣子、永井ますみ、長岡紀子、福田ケイ。

2部

ショートメッセージ

・秋野光子さん

「私のお宝、私の撮った写真たち」

秋野さんが大切にされている1989年からの貴重な写真に当時の様子やエピソードを交え紹介していただいた。関西詩人協会設立時の記念写真には、杉山平一さん、福中都生子さん、水口洋治さん、島田陽子さん、日高てるさん、他34名の方のお顔があった。(撮影は秋野さん)その他、50余枚の若い写真に、会場からは、その当時を懐かしむ声も聞かれた。また、吉原幸子さん、新川和

江さんと秋野さんのツーショットにも見入った。関西詩人協会創立者の杉山平一さんの笑っておられる遺影は、これからの会へのエールをくださったような気がした。

・奥村和子さん

「二上山幻想」

二上山は古代から歴史的遺跡がたくさんある山。奥村さんが実際にそこを訪ね、撮られた6箇所の写真をもとに話された。内容はそれぞれに興味深く、実際に訪ねてみたくなるものばかりだった。

①古墳の石棺を切り出された石切り場 ②鹿谷寺や岩屋の石窟寺院跡 ③飛鳥と難波を結んだ竹内街道の難所跡、④二上山頂雄岳の大津皇子の墓(ただし明治2年につくられたもの) ⑤大津皇子の墓とされた鳥谷口古墳や加守寺跡 ⑥彼岸の時に雄岳と雌岳の間に沈む夕日。

最後に大津皇子の悲劇を世の常の理不尽と重ね美しくも哀しい皇子の生涯をこめて詠われた自作詩「二上山の笹百合」を朗読された。二上山幻想の趣たつぷりの時間だった。

・苗村和正

「仏との出会い、人との出会い」

奈良の円城寺の国宝仏の運慶作の大如来像を描き詩画展に出品。その動機として、8年前の東日本大震災で亡くなられた人々への鎮魂の思い、それと同時に、東京在住の姉夫婦の相次ぐ他界があったことなどがあった。また、中高時代に、朔太郎や中也の詩に憧れ詩作に没頭した。それは、戦時下の父の死、病気がちの母との別居という不幸が詩の世界に誘ってくれ、ともすれば崩れそうになる自分の魂の砦となってくれていたように思

うこと。また、20代の頃、大学での寺山修二、小野茂樹(歌人)、後藤明生(露文)らとの出会いは、今にして思えば、彼らとの青春の交流こそ、かけがえない宝になっているといったお話をうかがった。

・阪南太郎さん

「数々の出会い」

名古屋市在住の水内喜久雄さんの著書『ステキな詩に会いたくて』(小学館)などにより、関西詩人協会の先輩の詩の数々に出会ったことを話された。詩を読むことで、元気になり、詩は宝との思いが伝わってきた。また、佐古祐二さんから「関西詩人協会は詩を愛する人なら誰でも入れます。」のひとことに背中を押され、ご夫婦で会員になられた。同人誌「軸」に寄せられた太郎さんの自作詩と、奥様(花山美咲さん)の自作詩を朗読されたあと、平和の願いを書き続けていきたいと今後の詩作への意欲を語られた。

・和比古さん

「私の詩画と科学の歩み」

科学者でもある和比古さん。科学者と詩人の共通点を挙げられた。【世間知らず。これは創造のための必須条件】【数少ない理解者はライバルまたは敵にもなる】【孤独な戦士】あと二点省略。

谷川俊太郎氏の詩画集を例にとり、詩と絵の関係に言及された。有機化合物の合成は創造に基づいたアートであるという考えに基づき、インスピレーションとして感じる美の表現意欲に駆られ詩と絵の世界に入られた。化学の世界でも、美的、詩的センスが必須である。これは脳を様々の分野で駆使させることにより、よりよいアイデアが生

まれるからである。新触媒反応として美しい反応様式を有し、自らの名前のついた「平尾反応」を開発された。詩画と科学に夢を持ち、今後も新しい研究領域への挑戦の抱負を語られた。

3部

自作詩の朗読

以下8名の自作詩の朗読があった。・高丸もと子「雨の日のさくら」・中島省吾「冬に咲く愛の花」・福田ケイ「この萩のなかに佇めば」・田島廣子「認知症病棟の声」・秋野光子「うさぎ」・もりたひらく「TICK TICK TICK」・とうしてなんて訊かないで「藤谷恵一郎「バラ断章」田村照視「狂気の行方」

詩画展最後の日でも作品の搬出の用意もあり、少し慌ただしかったものの、最後まで充実した会になった。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。なお、この様子を撮影・編集したDVDがあります。ご興味のおありの方は永井事務局長までお問合せください。(文責 高丸もと子)

詩話会参加者名

市原礼子、和比古、田村照視、藤谷恵一郎、奥村和子、高丸もと子、田島廣子、斎藤明典、松村信人、吉田定一、永井ますみ、榊次郎、嵯峨京子、岩井洋中西衛、名古屋よえ、苗村和正、秋野光子、阪南太郎、あたるしましろうご、福田ケイ、もりたひらく、大倉元、加納由将、紀ノ国屋千、長岡紀子、花山美咲、美濃吉昭、村野由樹、山下俊子、力津耀子各氏。(外部2名)

詩画展報告

担当 吉田定一・和比古・田村照視

第28回関西詩人協会詩画展が5月21日から6月2日まで、東大阪市の大阪府立中央図書館にて、「多彩な詩とコラボするアート」と題して開催された。参加者は以下の30名であった。秋野光子・あたるしましろうご・市原礼子・井上良子・大倉元・尾崎まこと・和比古・梶谷忠大・加藤桂・加納由将・香山雅代・小松原恵子・斎藤明典・榊次郎・左子真由美・高丸もと子・田島廣子・田村照視・外村文象・永井ますみ・名古屋よえ・苗村和正・播磨カナコ・藤谷恵一郎・美濃吉昭・村野由樹・森ちふく・もりたひらく・吉田定一・力津耀子の各氏である(あいうえお順)。いずれの作品も力作であった。昨年までの会場は図書館の都合で使えず、大阪府立中央図書館の展示場を利用した。必ずしも広い展示場ではなく、図書館の奥に位置していたが、それなりにコンパクトな詩画展を開催出来たと思う。感想ノートを会場に置いたが、芳名録も置きたかった。下の写真は、搬入時の搬入者の集合写真と展示風景である。作品集は別途作成し、ホームページに掲載している。

(文責 和比古)

